

ティルト&リクライニング車いす

LAPPO III

らっぽ

取扱説明書



この取扱説明書は、商品を安全に使用していただくため、正しい使用方法や、注意事項が記載されています。ご使用になる前に必ずお読みください。



カナヤママシナリー株式会社

HUMAN SOLUTION

製品のチェック

以下の点は、出荷時にチェックしていますが、搬送中のトラブルもありえますので、必ずお確かめください。

- 四輪とも車輪が、床に接地しているか？
- ティルトレバーで、座面の上げ下げができるか？
- リクライニングレバーで、バックサポートの角度調整ができるか？
- ティルトレバー・リクライニングレバー、それぞれ任意の位置で固定できるか？
- 前輪・後輪ともに、スムーズに回転するか？
- 左右のフットブレーキが、しっかり掛かるか？ または、スムーズに操作できるか？
- スイングアウト（フットサポート）が、スムーズに操作できるか？
- 背折れダイヤルが、しっかりと固定されているか？

本書の目次

調整は正しい順序で行われることが大切です。最初に正しく座る姿勢に調整し、次に運転目的に合ったバランスを調整します。座る姿勢が変わると車いすのバランスも変わるので、この順序を守ってください。

安全にご使用いただくために……………	2	<転倒防止・ティッピングバー>……………	11
警告……………	2・3・4	<介助用ハンドルの調整>……………	11
注意……………	4	<大車輪着脱>……………	12
各部の名称……………	5	<大車軸前後調整>……………	12
各可動域説明図……………	6	<座面高の設定>……………	13
各部の操作方法と使用方法……………	7	<キャスターの高さ調整>……………	13
<座面角度調整レバー（ティルトレバー）>……………	7	<駐車ブレーキ>……………	14
<背もたれ角度調整レバー（リクライニングレバー）>……………	7	<ハイバックの着脱>……………	14
<座面の張り調整>……………	8	<分解>……………	15
<背シートの張り調整>……………	8	ガススプリングについて……………	16
<アームサポートの跳ね上げ、取り外し>……………	9	車椅子の保守・点検……………	17
<アームサポートの高さ調整>……………	9	車椅子の主な乗り方<各部の点検・保守方法>……………	18
<スイングアウト機構>……………	10	仕様……………	19
<フットプレートの前後調整・角度調整>……………	10		

お使いになる方や他の方への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただく内容を説明してあります。

■表示内容を無視して、誤った取り扱いをした場合に生じる危険や損害の程度を説明してあります。

**警告**

この表示欄は『死亡または重傷に至る可能性が想定される』内容です。

**注意**

この表示欄は『傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される』内容です。

■お守りいただく内容を説明してあります。



この表示欄は、してはいけない『禁止』内容です。



この表示欄は、していただく『強制』内容です。

**警告**

① かわれた状態や異常があるときは使用しないでください。

かわれた状態や点検せずに異常のあるまま使用すると、事故や転倒などによるけがの恐れがあります。

② 勝手に改造しないでください。

改造すると安全性が低下して、部品が破損したり、外れたり、車椅子を損傷させたりして事故や転倒などによるけがの恐れがあります。

また、改造や補助動力装置を装着しますと、保証の適用を除外されます。

整備が必要なときは、販売店にご相談ください。

③ 夜間や、雨降りなど悪天候の時は通行者や車から発見しにくくなります。十分にご注意ください。

④ 介助者は絶対に車椅子に乗って介護しないでください。

⑤ 背もたれに重い物を引っ掛けしないでください。転倒の危険性があります。

⑥ 屋外での長期間の保管は避けてください。錆や故障の原因となります。

⑦ 坂道の上がり下がりの際は、必ず介助者に支えてもらってください。

上がる時は前向きで、下がる時は、後ろ向きで走行してください。

※ 坂道を前向きで下がると、乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

⑧ 車椅子に乗り降りの際は、必ずフットプレート(ステップ板)を上に乗せてください。

※ 絶対にフットプレート(ステップ板)の上に乗って車椅子に乗り込んだり、降りられる時に立ち上がらないでください。車椅子ごと転倒する危険があります。



警告

- ① 階段などで利用者が乗ったまま車椅子を持ち上げる場合は、固定されているパイプを3、4人でしっかり支えてください。
※ アームサポートを持たない。※ フットサポートを持たない。※ タイヤを持たない。
※ 押し手ハンドルを持たない。
(これらの箇所を持ち上げると、フットサポートやアームサポートなどが車いすから外れるなど、大変危険です。)
- ① 調整作業に不安があるときは調整しないでください。
部品が破損したり、外れたり、車椅子を損傷させる恐れがあります。
お近くの販売店へご相談ください。
- ① ホイールの脱着後、固定を確認せずに使用しないでください。
ホイールが外れて、転倒の恐れがあります。
- ① 落下、転落しないでください。
事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ① 不十分な調整状態で使用しないでください。
身体に無理をかけたたり、床ずれ(褥瘡)などになる恐れがあります。
- ① 車軸前後位置は身体の状態に合わせて調整をし、無理な調整はしないでください。
転倒によるけがの恐れがあります。
- ① 50℃以上の高温になる場所(炎天下の自動車内、暖房器具の近く)におかないでください。
高温になり、火災やパンクなどの恐れがあり、また部品を著しく傷める恐れがあります。
- ① 車椅子に巻き込まれやすい服装を避けてください。
ホイールなどに巻き込まれ、転倒によるけがの恐れがあります。
- ① 移乗時はチルトさせたままフットプレートに立ったり乗ったりしないでください。
車椅子を損傷させたり、転倒などによるけがの恐れがあります。
- ① 掃除するときなどにタイヤにワックス、油分を付けしないでください。
ワックス等の油分が付くと、タイヤ、ハンドリムが滑り、十分なスピード調整が出来なくなり、事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ① 他の乗り物につかまりながらの移動は危険です。
車椅子を損傷させたり、転落、転倒などによるけがの恐れがあります。
- ① 下り坂などでのスピードの出しすぎは危険です。
衝突や転倒などの事故を起こしやすく危険です。
- ① スピード調整は、必ずブレーキを使用してください。
- ① 一般道以外の荒地、悪路には入らないでください。
車椅子を損傷させたり、事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ① 凸凹の激しいところ(踏み切り、歩道の段差や溝)などは自力走行を避けてください。
キャスターホイールがはさまったり、フレームやホイールが損傷し、事故や転倒などによるけがの恐れがあります。●介助してもらいましょう。
- ① 乱暴な取り扱い、無理な取り扱いをしないでください。
車椅子を損傷させ、事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ① 滑りやすいところは自力走行を避けてください。
降雪、積雪、凍結路、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷などはスリップして、事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ① ペットを連れて使用しないでください。
ペットに引きずられ、衝突や転倒などによるけがの恐れがあります。

警告

- ① 傘をさして使用しないでください。
傘をさしての片手操作は不安定で危険。事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ① 未使用時の車椅子に幼児を近づかせないでください。
けがをしたり車椅子の下敷きになり、けがの恐れがあります。
- ① 運動機能が低下するものを摂取したときは自力走行しないでください。
事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ① エスカレーターの使用は避けてください。
ホイールなどを巻き込まれての事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ① 急坂などの自力走行は避けてください。
転倒などによるけがの恐れがあります。

注意

- ① 点検、整備を怠ると故障や事故などによるけがの恐れがあります。
日常の点検、整備、および1カ月に1度各部の点検、整備をしてください。
- ① 上半身の不安定な方はベルトの装着をしてください。
- ① 移乗時、停車時、未使用時はブレーキをかけてください。
動き出して落下、転落、転倒などによる、事故やけがの恐れがあります。
- ① 車椅子は歩行者。必ず歩道を通りましょう。

安全に介助されるために

- ① 回転部、可動部には触れさせないでください。
ホイールなどに巻き込まれ、けがの恐れがあります。
- ① 持たれる位置を指定してください。
介助者がけがをする恐れがあり、また落下や転落、転倒などによるけがの恐れがあります。

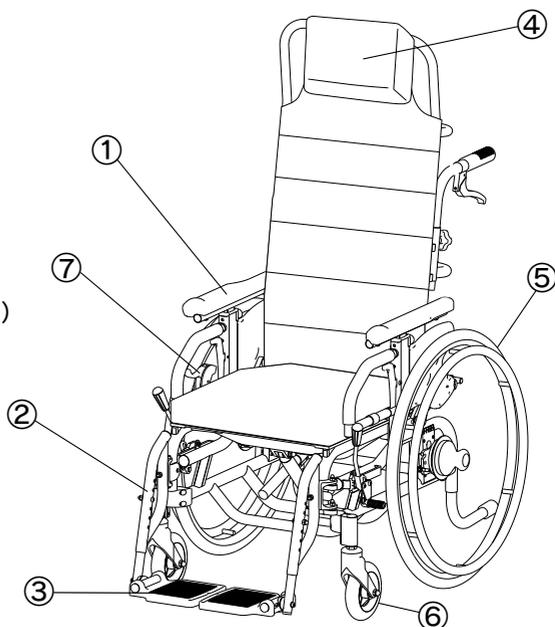
注意

- ① 素足で使用しないでください。
けがの恐れがあります。
靴下などを履き、そこのある履物を履いて使用してください。
- ① タイヤを使って駆動しないでください。
タイヤとブレーキの間に手を挟まれる恐れがあります。
ハンドリムを使って駆動してください。
- ① 低温(-5℃以下)での使用、保管はしないでください。
各部品が損傷する恐れがあります。
- ① 面ファスナーは確実に取り付けてください。
固定力が低下し調整状態が変わります。
- ① 面ファスナーに付着した糸屑などは取り除いてください。
固定力が低下し調整状態が変わります。

各部の名称

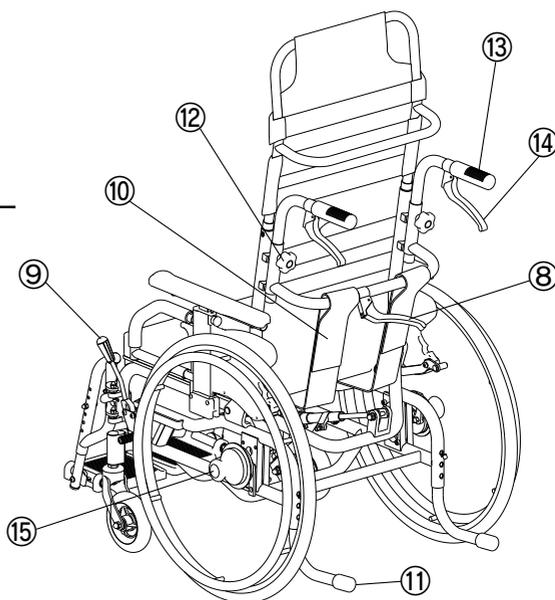
<前から見た図>

- ① アームサポート
- ② フットサポート
- ③ フットプレート
- ④ ヘッドサポート
- ⑤ 大車輪
- ⑥ 5インチ前輪 (キャスター)
- ⑦ ティルトレバー



<後ろから見た図>

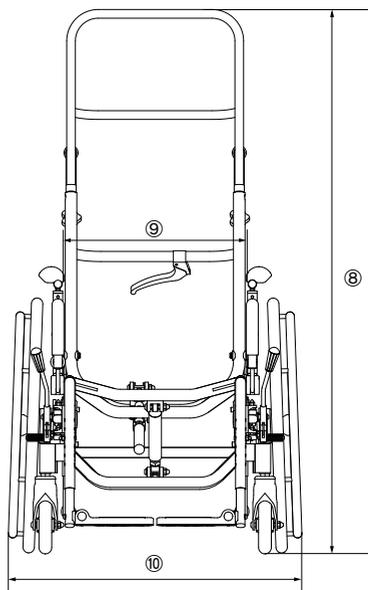
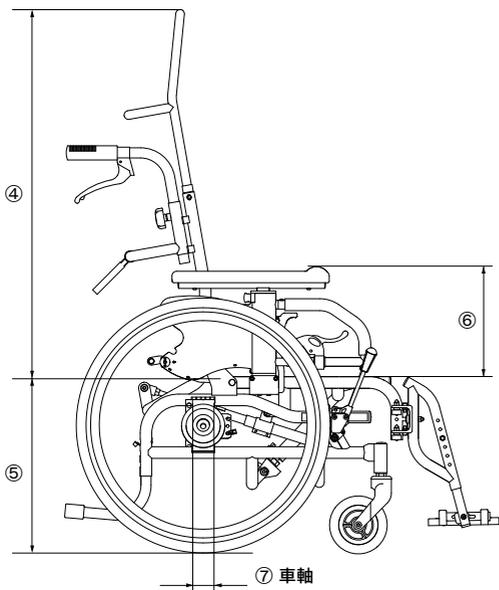
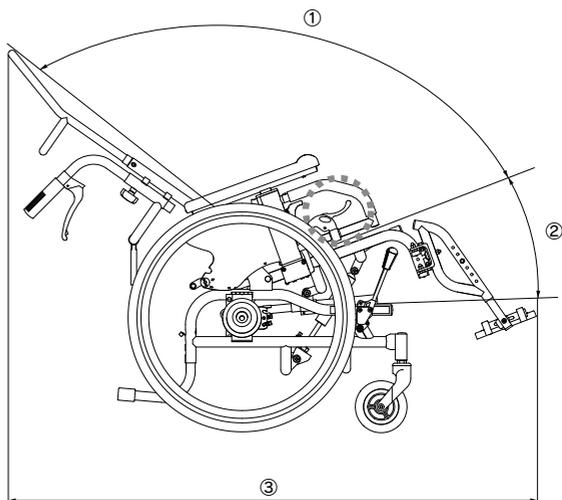
- ⑧ リクライニングレバー
- ⑨ 駐車ブレーキ
- ⑩ 縦ベルト
- ⑪ 転倒防止・ティッピングバー
- ⑫ 押手高さ調整つまみ
- ⑬ 押手 (介助用ハンドル)
- ⑭ 介助ブレーキ
- ⑮ クイックリリースボタン



各可動域説明図

各値は、巻末の仕様表を参照願います。

- ① バックサポート角度
- ② シート角度
- ③ 車いす最大外寸（全長）
- ④ バックサポート高さ（ハイバック）
- ⑤ 座面高
- ⑥ アームサポート高さ
- ⑦ 大車輪調整範囲
- ⑧ 全高
- ⑨ 座面幅
- ⑩ 全幅



各部の操作方法と使用方法

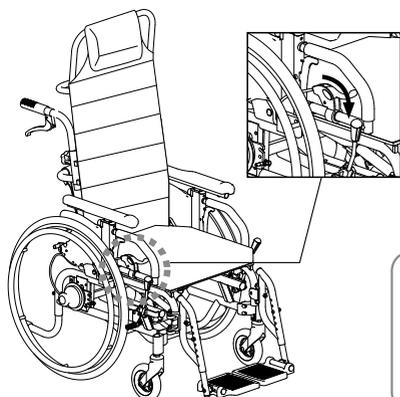
<座面角度調整レバー（ティルトレバー）>

- ① レバーを握ると座面角度を調整できます。（-2度～20度）
- ② 安全の為、ワイヤーは1年に1度定期的に点検をし、必要に応じて交換してください。



注意

●ティルト操作時はブレーキがしっかり掛かっているか、また、傾斜等の不安定な場所でのご使用はご遠慮下さい。



車椅子に座った状態で、座面脇左にあるティルトレバーを操作し、ロックを解除します。

座面を上げる場合は、背中を背もたれにつけて、ゆっくりと体重をかけます。重心を少し後ろに移動させ、介助者がフットサポートにつながるフレーム部を持ち上げると、ダンパーの力でゆっくりと、座面が持ち上がります。座面を下げる場合は、逆にゆっくりと前方に、体重をかけます。（重心を前に移動させる）体重の少ない人の場合は、介助者が押し下げてください。利用者にあった角度が決まったら、ティルトレバーを元に戻してロックさせます。

■座面角を変更できる利点

- 操作（足こぎ・手こぎ）しやすい姿勢に合わせることができる。
- 休憩姿勢がとりやすい。
- 食卓や洗面台などへのアプローチがしやすい。
- 座面側から姿勢を整え、姿勢の安定、座位姿勢での床ずれの大きな原因となる前滑りの防止や、臀部の除圧効果が格段に高まります。

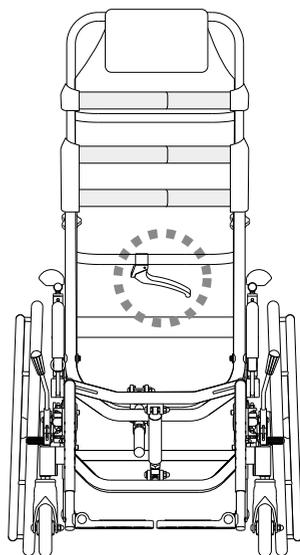
<背もたれ角度調整レバー（リクライニングレバー）>

レバーを握ると背もたれ角度を調整できます。（0度～135度）



警告

- 安全の為、ワイヤーは少なくとも1年に1度定期的に点検をし、必要に応じて交換してください。
- 乗員の重さが加わりますのでしっかりハンドルを握り、支えてからリクライニングレバーを操作してください。背もたれが急に倒れ危険な場合があります。
- ティルト・リクライニングレバーの操作は必ず介助者が操作してください。
- 坂道での走行は転倒する恐れがあるため十分注意してご使用下さい。
- ティルト・リクライニングレバーの急激な操作は絶対にしなide下さい。

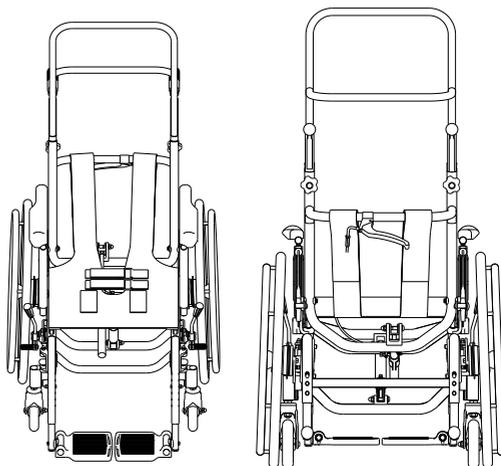


<座面の張り調整>

座面シートから延長している縦ベルトが2本あります。

姿勢に左右差のある方や、おしりの沈み込みは、縦ベルトの張りを変えることで調整します。

これは、骨盤上部から腰部にかけてのサポートをしっかり行うため、自分が安定感を得られるように調整を行ってください。



要点

実際に車椅子を操作してみて、動きやすさや安定感の違いを感じとってください。必要であればベルトの張りや座面、背もたれの角度を変えたりしてみてください。

<背シートの張り調整>

背もたれにあるリクライニングレバーを解除する事によって背角度が最大135°まで可動します。背もたれ後ろにあるベルトを利用者の背中の中の形にあわせてベルトの張り具合を調整し、下のベルトから順に座り心地の良い状態にします。

■ハイバックセットのベルト調整

背もたれの張り調整以外にハイバックセットも張り調整ができます。3本のベルトを背もたれ同様に下から順に張り調整していきます。

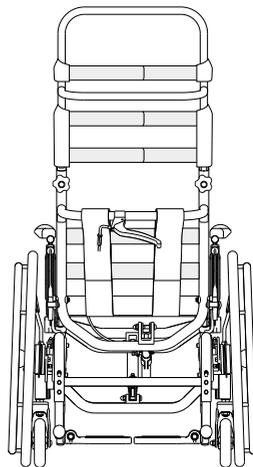
■背もたれ調整による利点

適切な利用者の背中の中の湾曲に沿った調整により、骨盤をしっかりと立て、体幹、上肢、頭部が動きやすくなると、食事や作業、会話などがスムーズに進みます。



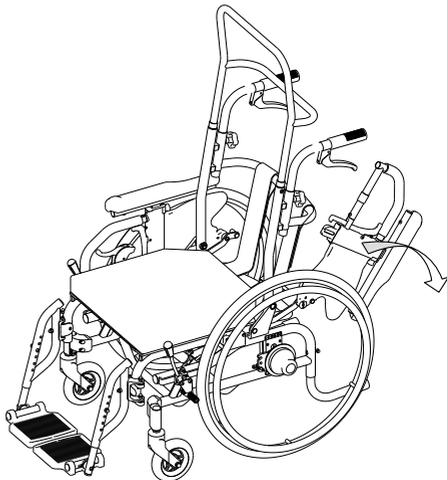
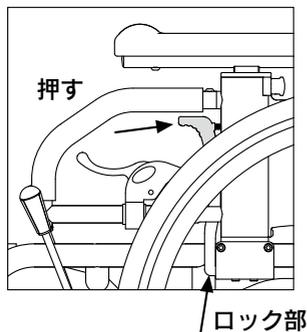
注意

- 背もたれを緩めすぎてリクライニングレバーとの接触に気をつけてください。
- リクライニングの際には急激に倒れたりすることもありますのでくれぐれも注意してお取り扱いください。



<アームサポートの跳ね上げ、取り外し>

アームサポートは、肘掛部下の前側にあるレバーを押すとロックが外れます。押した状態で上に持ち上げる事で、跳ね上げることができます。そのまま倒すと、後ろで止まります。途中で手をはなして、衝撃を与えないでください。アームサポートを元に戻した時は、ロックがかかっているか確認してください。アームサポートを90°持ち上げた状態で真上に引き上げると、取り外すことができます。取り付けは、逆の手順です。無理に引き抜かないでください。



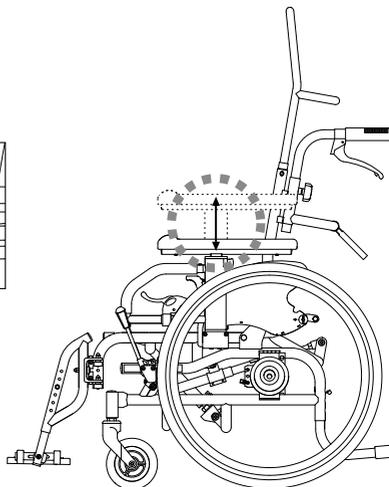
<アームサポートの高さ調整>

高さ調整は肘掛部下の後側にあるつまみを引くことで調整ができます。高さ調整後は、つまみが引っ込んでロックがかかっているか確認してください。ロックがかかっていないと危険です。



注意

- ロック用レバーに手提げ袋等を吊り下げないでください。
- 左右の肘掛を確認してください。
- テーブルの装着はできません。



<スイングアウト機構>

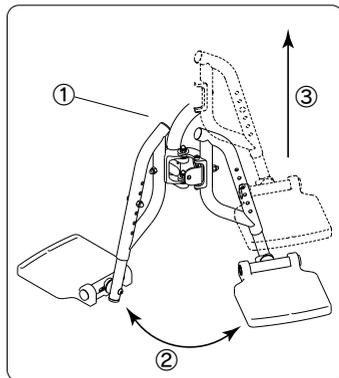
- ① レバーを押して、ロック解除します。
- ② 外側へ廻します。

<スイングアウト>

- ③ 外側へ廻した状態で、フットサポートを上へ引き抜くことができます。

<スイングアウトを戻す時>

ロックがかかっていることを確認して下さい。



注意

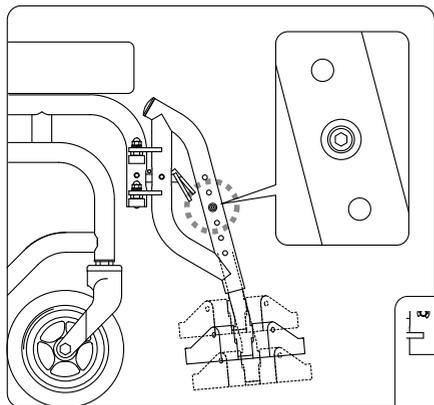
- スイングアウトした際は、必ずフットサポートを取り外した状態で、移乗してください。



警告

- 手や足を挟まないようにご注意ください。
- 走行時のステップポストの高さは、地面より5 cm以上でご使用ください。低すぎると凸凹路面や障害物にフットプレートが当たり、転倒する恐れがあります。

<フットプレートの前後調整・角度調整>



六角レンチでネジを取り外すことによって、高さを調整することができます。



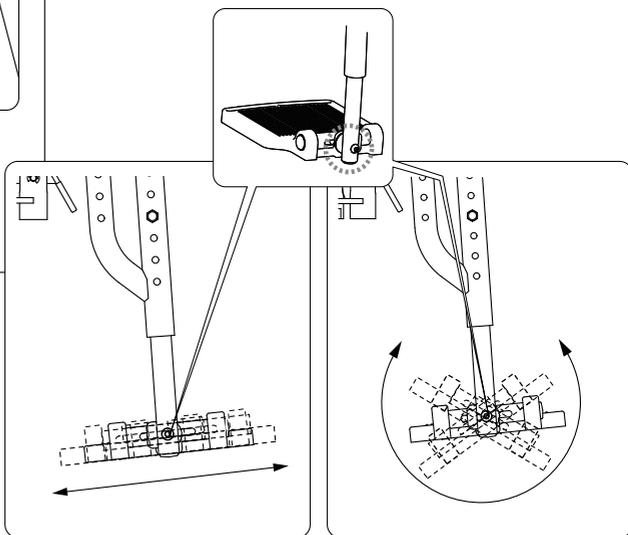
警告

- 調整後は、ネジがしっかりと固定されているか確認してください。



注意

- ナットが中にあるので、調整する際には紛失しないようご注意ください。

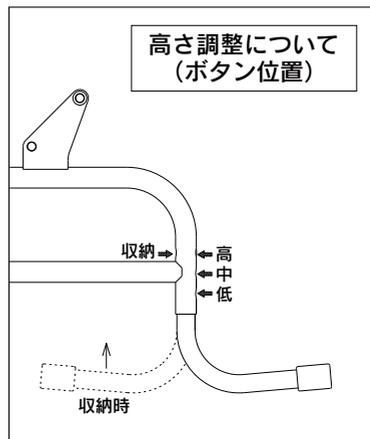
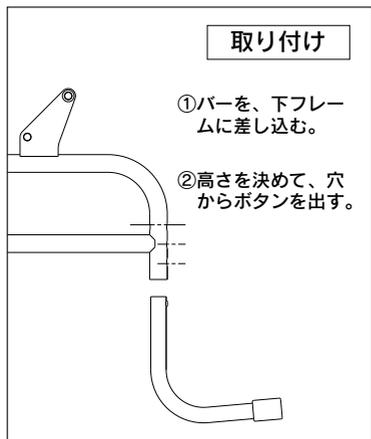


六角レンチでネジを緩めて、プレートを持ちながら前後調整を行います。

六角レンチでネジと菊座金を緩めて、プレートを持ちながら角度調整を行います。

<転倒防止・ティッピングバー>

高さは、ロックボタンを押し込んでロックを解除し、上下に移動させて調整します。いちばん下まで伸ばすと、より確実に後方への転倒を防ぎますが、段差乗り越えの際、キャスター上げが制限されますので、ご注意ください。



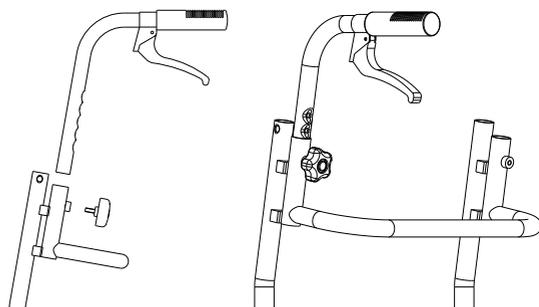
注意

●ロックボタンが出ているか確認してください。

<介助用ハンドルの調整>

背もたれに取り付けられた押手の下にある固定ハンドルを緩めると上下に高さの調整ができます。

ガタつかない様にしっかりロックします。内側にスイングしますと折りたたむ事ができますし、移動の際にも邪魔になりません。

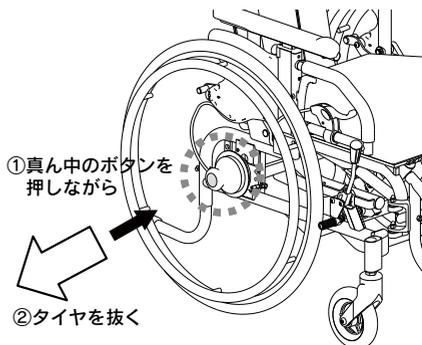


注意

●押手が固定されているか確認してください。

<大車輪着脱>

大車輪は、真ん中のボタンを押しながらタイヤを外へ引くことで、タイヤを抜くことができます。大車輪を取り付けるときは、ボタンを押したまま、しっかりと奥まで差し込みます。



注意

- 大車輪を外した際は、シャフトに傷等つけない様に注意してください。又、シャフト内にゴミ等入らない様にしてください。
- 大車輪を取り付けた場合は、しっかり収まっているか大車輪を引っぱって確認してください。

<大車軸前後調整>

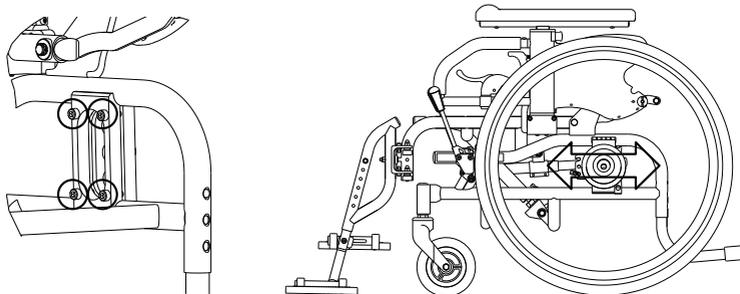
座る姿勢が決まったら、車椅子のバランスをとります。

<※調整時は一度車椅子から降りてください>

車軸受けプレート裏面の固定ネジを緩めて、目盛りに合わせて前後にスライド移動させて調整します。このとき、いちばん前に移動すると、重心位置に近くなり軽い力で操作できる状態になります。しかし、そのままでは後ろに転倒する恐れがでけますので、利用者の状態に合わせて、車軸受けプレートを後方に移動させるか、転倒防止補助輪をお使いください。

※調整には右の工具をご用意ください。六角レンチ（5mm）

固定ネジ
(4箇所)



要点

車輪を前へ出すことにより、車椅子を操作するハンドリムが車輪に伴って前方へくる為、こき易くなります。そして、小回りが利くようになります。あまり腕力の無い人でも簡単に操作ができるようになります。



注意

- 車軸の移動量が大いいとブレーキの調整代が不足しますので、タックルブレーキの取付位置の移動が必要です。
- 車軸位置を前方にするとウィリーしやすくなりますので身体の状態に合わせて調整してください。
- ホイールが完全に固定されていることを確認してください。
- 左右の目盛位置がずれていますと、直進性が悪くなりますのでご注意下さい。
- 介助ブレーキの効きが良いか確認してください。
- 軸受けのナットが緩んでいないか確認してください。
- 介助ブレーキ用ワイヤーが緩んでいないか注意してください。
- ワイヤーの調整時に手をはさまぬよう注意してください。

<座面高の設定>

座面の高さは2段階に調整することができます。

調整の順序は、まずタイヤを取り外し、車軸受けプレート裏面のボルトを取り外します。

次にプレートから車軸受けのナットを緩め取り外します。

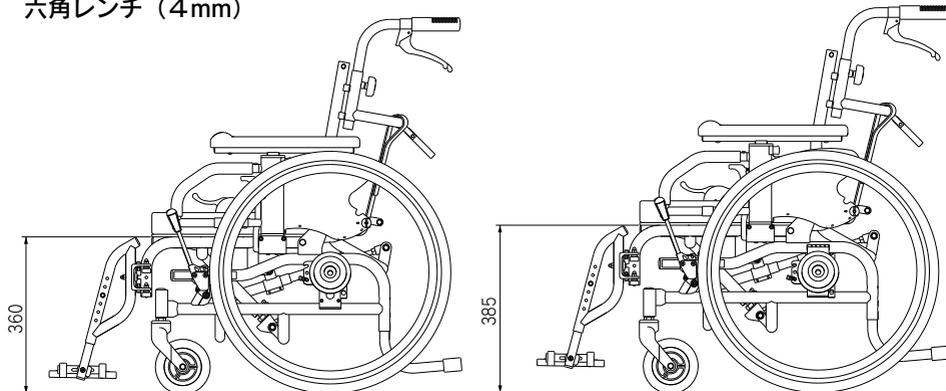
取り外した車軸受けを車軸受けプレートの穴（3箇所）の中央か下の穴のいずれかに装着します。（出荷時は中央の穴に装着されています）

尚、車軸受けの高さを調整した際にはキャスターの高さ調整も必要です。

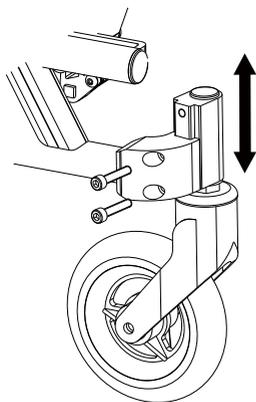
※調整には以下の工具をご用意ください。

ソケットレンチ（24mm）

六角レンチ（4mm）



<キャスターの高さ調整>



- ・ 2つの六角穴付ボルトを外します。
- ・ キャスター受けブロックを移動します。
- ・ 六角穴付ボルトを締め付けます。



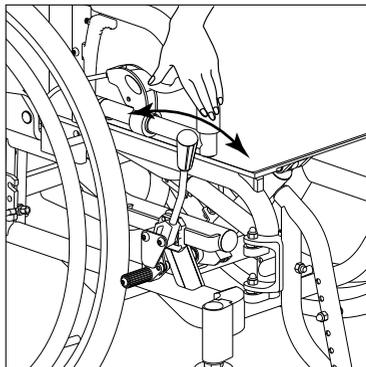
注意

- 六角穴付ボルトがしっかり締まっているか、確認してください。緩んでいると、キャスターが外れ、とても危険です。
- 座面（テイルト）角度が0°のときに、座面が水平になるように、キャスター高さを設定してください。そうしないと操作性が悪くなり、場合によっては危険です。

< 駐車ブレーキ >

タックルブレーキは、本体裏面の固定ネジを緩めてから、ブレーキ本体を移動（スライド）させて調整します。ブレーキをかける目安は、かけたときに5mmほど、タイヤにくい込むようにします。決まったらネジを締め付けます。

※調整には以下の工具をご用意ください。
スパナ（8mm）



駐車ブレーキをかけるときはレバーをタイヤ側へ倒します。解除するときは反対側へ戻します。無理な操作はお止め下さい。

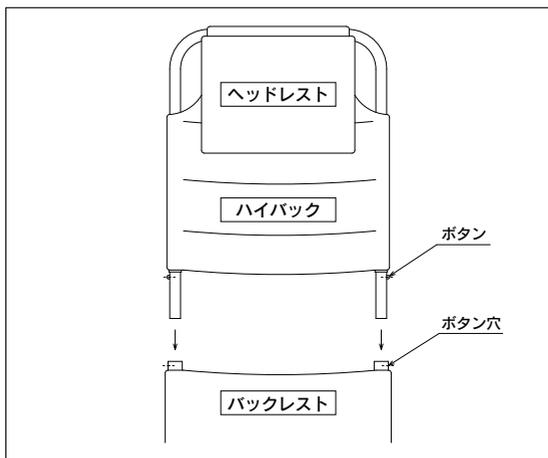


注意

- ブレーキの調整の際には手をはさめようご注意ください。
- タイヤには十分空気が入っていることを確認してください。
- 走行の際にはブレーキのロックを必ず解除してください。
- タイヤのロック以外の目的でブレーキを使用しないでください。

< ハイバックの着脱 >

ハイバックセットを装着する場合、ハイバックパーツを背もたれ部に差し込み、ロックボタンが固定用穴から出てくればロック完了です。ヘッドレストは、利用する方にあわせて位置を調整します。



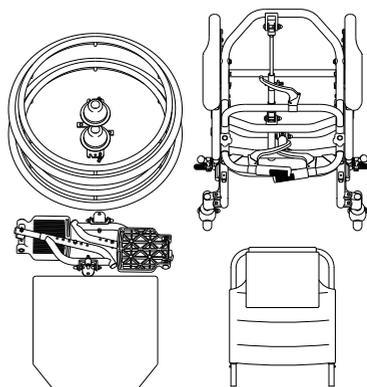
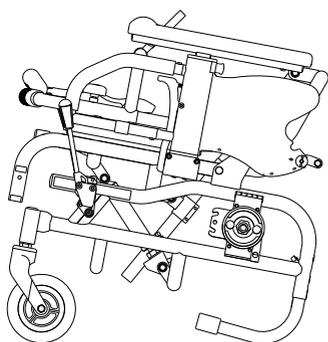
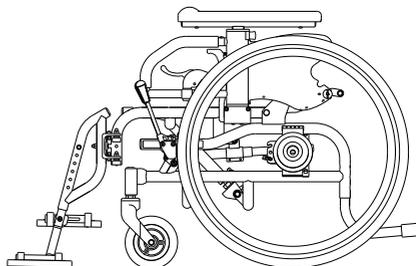
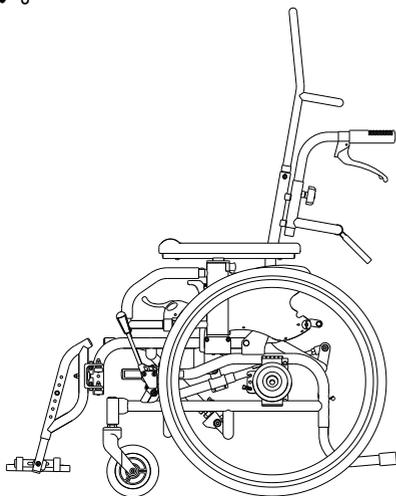
注意

- ピンが出ているか確認してください。
- ピンが出ていないと簡単にハイバックが外れますのでご注意ください。
- ハイバックの装着に手間取った場合はベルトを緩めてみてください。

<分解>

LAPPOⅢ（車椅子）を自動車などに積み込むときは、ハイバックを取り外し、座面を水平に戻して、アームサポートの高さを一番下まで下げて背もたれを前に倒し、大車輪をはずします。着脱式大車輪は、車輪中心にあるクイックリリースボタンを押しながら手前に引くと、はずれます。

大車輪を取り付けるときは、ボタンを押したまま、車軸をしっかり奥まで差し込みます。ボタンをはなして、車輪がしっかり納まっているかどうか、車輪を外側にひっぱって確認してください。



注意

LAPPOⅢ（車椅子）は、部品を取り外すことで、軽量・コンパクトになり、積み込みなどが楽になります。しかしその反面、部品を紛失する可能性がありますので、その点には十分ご注意ください。

ガススプリングについて

●ガススプリングの取り扱い上の注意



注意

- 摺動部に注油は一切不要です。注油するとシールの耐久性をなくし、油漏れの原因となります。
- 衝撃を加えることは絶対に避けてください。油漏れ、動作不良、破損の原因となります。
- 分解は絶対にしないでください。高压ガスが封入されていますので、分解すると非常に危険です。
- 曲げ荷重の負担がかかりますと、曲げ方向の剛性が少ないので、取り付けの精度によりロッドが曲がり、動作不良の原因となります。
- ピストンロッドおよびシリンダーに打痕をつけますと、シールの寿命を縮めたり、動作不良の原因になります。
- 周囲の気温があまりに高い、または低い場所でのご使用はなるべく避けてください。
使用条件・保存条件 (-20℃～80℃)
- 雨や水のかかる場所、ホコリの多い場所でのご使用は避けてください。

●ガススプリングの廃棄方法

廃棄する際は、次の注意事項を守ってください。この部品は、窒素ガスが高压で封入してあるため、ガスを抜かずに処理すると、爆発によりけがをすることがあります。

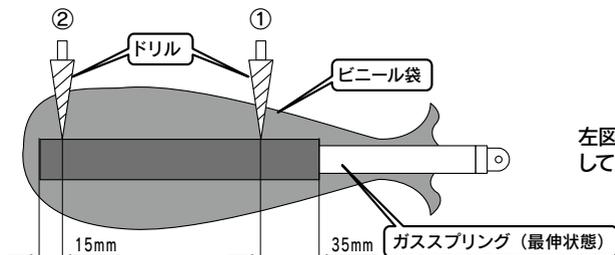


注意

- 押しつぶさない。
- 切断しない。
- 図以外の場所に孔を開けない。
- 火に入れない。

●廃棄の手順

1. ガススプリングを、最伸状態にしてください。
2. ビニール袋をかぶせ、その上から2～3mmのドリルで①の孔を開け、ガス・油を抜いたあと②の孔を開けてください。(※注意 必ず手順を守ってください)
3. ビニール袋を使用しない場合は、金属粉・油が飛びますので安全メガネを装着し、怪我の無いように十分ご注意ください。下図の要領で孔を開け、ガス抜きをしてから廃棄してください。
 - 薄手の手袋を着用して、作業を行ってください。
 - 廃棄作業の途中で異常が見つかった場合は、作業を中止してください。



左図の要領で孔をあけ、ガス抜きをしてから廃棄処分してください。

車椅子の保守・点検

★四輪が地面に接地していますか？

フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。

★シートに破損やたるみ、傷みはありませんか？

車いすは湿気に弱いので、雨にぬれる場所に放置していたり、長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損なわない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

★フットサポートのネジ類が、しっかり固定されていますか？

工具を使用して、フットサポートのボルトを緩め、適当な高さに合わせて下さい。

★車輪やキャスターは、しっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャスターは緩んでいませんか？ 緩んでいると、使用中に突然車輪やキャスターが外れて転倒するなど大変危険です。十分ご確認の上、しっかりと固定してください。

★洗淨の際には、水、お湯、または、中性洗剤をご使用ください。

強いオゾンによる消毒はお避けください。変色や劣化等の原因になります。また、洗淨後は、乾燥させてください。カビやサビの原因となります。強いオゾンでの消毒はタイヤの変色や劣化の原因となります。

★ワイヤーは切れていませんか？

リクライニングワイヤー、ブレーキワイヤーは切れていませんか？ ブレーキが効かなかつたり、転倒するなど大変危険です。安全のためにワイヤーは1年に1度定期的に点検をし、必要に応じて交換してください。

- スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
- 異常が見つかった場合は、ご使用を中止してください。

車椅子の主な乗り方 <各部の点検・保守方法>

★タイヤの空気が十分に入っているか確認しましょう。

★下りは加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。

★いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。

★車道はできるだけ通らず、歩道や十分な幅のある路側帯を通りましょう。

※車椅子の廃棄について

不要になった車椅子は、販売店に処分を依頼するか、自治体の大型ゴミの処分方法に合わせて回収してもらってください。



警告

- ⓪ 不法投棄は、絶対にしないでください。
ガスプリングを処理せずに廃棄すると、
爆発事故を引き起こします。
(P16の「ガスプリングについて」参照)

品名

LAPPO III 標準仕様・規格

仕様		(mm)	370幅	400幅	430幅
座幅		(mm)	370	400	430
座面高		(mm)	360/385	360/385	360/385
座奥行		(mm)	400	400	400
バックサポート高	ハイバック無	(mm)	404	404	404
バックサポート高	ハイバックショート取付時 /ハイバックロング取付時		802/無	802/902	無/902
アームサポート高		(mm)	230～330(6段階)	230～330(6段階)	230～330(6段階)
介助用ハンドル高		(mm)	870～950(5段階)	870～950(5段階)	870～950(5段階)
全高	地面～グリップ部	(mm)	870～950	870～950	870～950
全長		(mm)	955	955	955
全幅		(mm)	615	645	675
重量		(kg)	18.6	19	19.4
耐荷重		(kg)	100	100	100
折りたたみ時全高	フットサポート、大車輪、 転倒防止を外した状態	(mm)	650	650	650
折りたたみ時全長		(mm)	575	575	575
折りたたみ時全幅		(mm)	514	544	574
キャスター (インチ)		(inch)	5		
後輪 (インチ)		(inch)	22*1		
キャンバー角			2°		
ティルト		(度)	-2°～20°		
リクライニング		(度)	0°～135°		
ハイバックショート	オプション		○	○	×
ハイバックロング	オプション		×	○	○
フレーム		(材質)	アルミ・スチール		
背シート		(材質)	ポリエステル (黒)		
座シート		(材質)	ポリエステル (黒)		
フットサポート	機能	可	着脱・前後調節・角度調節・ヒールサポートベルト		
アームサポート	機能	可	着脱・高さ調節・跳ね上げ・前後調節		
バックサポート	機能	可	張り調節・角度調節(全体)・角度調節(中部)・高さ調節		
キャスター	機能	不可	高さ調節・角度調節		
後輪	機能	可	高さ調節・前後調節・着脱		
介助用ハンドル	機能	不可	高さ調節		
転倒防止装置	機能	可	着脱		
座面	機能	不可	座幅調節・奥行調節・張り調節		

※ 改良・改善の為、予告なく仕様を変更することがありますのでご了承ください。この取扱説明書は大切に保存しておいてください。



カナヤマ HUMAN SOLUTION
マシナリー株式会社

ISO9001,14001認証工場

荻生工場 〒938-0801 富山県黒部市荻生1506-4
TEL 0765-57-3888 FAX 0765-57-3266

2014年3月(初版)